# 靴の歴史散歩 ⑬⑤

皮革産業資料館　副館長　**稲　川　　實**

**前号より続く。**

**組立**＝こうして別々に作った底（ストーム・ヒール）及び中底（甲布をつけた）を釘で打ちつけてしまいます。これで直ぐにも履ける靴の形（かたち）ができ上がりました。

最後に靴の裏へ、ありあわせの革またはゴムを、釘で二糎（センチ）おきに打って仕上げて下さい。

以上であなたの好みに合ったしかもニュールックの夏のサンダルができあがりました。洋服と同生地のサンダル。ハンドバックと同色のサンダル、あるいは色々な布の組合せなど、工夫なされば、一層趣味的なものになるでしょう。口絵色刷に示した二つのサンダル及びここに示しました靴は、何れもビーチサンダルで、いわゆる変り型スポーツの最も斬新な型です。海浜に限らず、避暑地でもまた家屋での庭履き、ちょっとした近くのお買い物などにも、この上なく重宝なものです。

（ミヤモト靴店・稲川實）

（サンダル用の部分品の内、ヒールは木の方が理想的ですが、お手製ではちょっと難しいので、ご入用の方は靴屋さんに分けていただくか、本社までご注文になれば、お取り次ぎしてさし上げます。）

**材料**　A　本底（革またはゴム）
　　B　ヒール（木またはボール）
　　C　ストーム（ボール三枚）
　　D　中底（ボール一枚）
　　E　尾錠
　　F　甲布（表布、裏布）
　　釘　六十本ぐらい（五分釘）
　　〃　三分釘少々

**道具**　ハサミ　小刀（または裁ち包丁）
　　金槌（かなづち）、コテ、穴あけ

今、これを読み返してみると、簡単にはできそうもない、サンダルの作り方を、書いてしまったようである。革を止めたりするのに、三分釘、五分釘を使っている点、圧着靴で試行錯誤していた時期と重なる。

何人かの読者に、木ヒールをお分けした記憶があるが、それよりなにより、これがヒントになって、「ご家庭に眠っている端切れで、あなた好みの靴を作りませんか」と呼びかけ、皮革統制を逆手にとり、商売に繋げられたからありがたかった。

写真は、昭和25年発行の『靴のニューモード・No5』（靴商工新聞社）